

令和5年度 東京都立大崎高等学校 学校経営報告

(定 時 制 課 程)

校 長 鶴 田 秀 樹

1 学校運営の評価

(1) 成果となった実績

- ①「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、健全なライフワーク・バランスを推進した。特に、企画調整会議や職員会議等は時間短縮(1時間以内)する工夫を行った。
- ②学校運営連絡協議会での外部意見や学校評価等を分析・検討し、外部からの視点も十分に取り入れて学校経営にあたった。
- ③職員室及び教材室等の整理整頓とクリーンデスクの徹底を図り、整理整頓された見通しの良い執務室を実現することにより、個人情報紛失事故を未然に防止するとともに教育環境の整備を図った。
- ④若手教員の不安や悩みを学校の取り組むべき課題として話題にすることで、打合せ時のコミュニケーションを活発化させ、ベテランとの双方向型人材育成を図った。
- ⑤夜間高校の新たな魅力を効果的に発信させるため、若手教員の新しい学校観を活用して学校案内を刷新させた。

(2) 課題となった問題点

- ①企画調整会議を中心に各分掌の業務を調整して、毎日の全員打合せで連携を深めてきたが、各種委員会での業務が滞り気味であり、一部の職員に業務の負担が大きくなってしまふことが課題である。
- ②育休制度活用後の後任補充できない教科及び分掌への支援体制を解消する。
- ③特別支援学校との連携した専門性向上のための教員向け悉皆研修を早期に実現する。
- ④夜間高校の魅力を効果的に伝える中学校教員を対象とした体験型説明会や長期休業中の中学校訪問実施を検討し、受検者増へとつなげる。

2 学習指導の評価

(1) 成果となった実績

- ①新学習指導要領の意義を踏まえ、生徒の実態等に即した指導内容・方法の改善を図った。特に、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習などアクティブラーニングの視点から授業改善を図った。
- ②授業の開始から終了まで、学びのかたちにこだわらない生徒との対話を大切にした学習環境の構築は、学ぶものと教える者との信頼を絆に学び直しの意欲を効果的に高めた。また、「分かる授業」を目的とした電子黒板やICTタブレットを使用しての授業を積極的に実施した。
- ③4年制大学進学(一般受験)を目指す生徒への計画的な補講・補習を実施し、学びのニーズに適切に対応した。
令和5年度4年制大学一般受験合格者1名
(実績：東京都市大学、明星大学、神奈川大学、芝浦工業大学)

- ④成育歴が複雑であったり、中学校での学力定着に課題があったり多様な生徒が在籍している個々の学力を教員一人一人が把握しながら基礎・基本の学習を重視して授業の実践に取り組んだ。学校評価アンケートでは、「私は、授業がよく分かる」の授業理解に関する質問に対して肯定的（そう思う・ややそう思う）に回答した生徒は91.7%（昨年は80%）、「私は授業が楽しい」の授業満足に関する質問に対して肯定的（そう思う・ややそう思う）に回答した生徒は91.7%（昨年は88%）となっており、多くの生徒が基礎・基本の定着を図ろうとする授業内容や学習指導を認めている。
- ⑤教員・生徒双方が非常時にオンライン学習を円滑に実施できるよう、オンライン学習の訓練である「都立学校オンライン学習デー」（TEAMS を利用した双方向コミュニケーション方式を採用）を年2回実施した。
- ⑥夜間高校に在籍する生徒にとって、心身の健康面を支える重要な食育指導を管理栄養士主導で年3回実施し、規則正しい食習慣と健全な日常生活の享受が不可分な関係であることの共通理解を図った。

（2）課題となった問題点

- ①学習障害や発達障害の傾向のある生徒への個別最適な学習支援方法を検討する。関係諸機関との時宜的なタイアップも視野に入れて検討する。
- ②生徒の興味・関心を効果的に高めると期待できる校内無線ランを活用した授業を推進する。
- ③学習到達度をフィードバックするための評価評定に関して、各教科担当が当該教科の特性を踏まえた上で、明確な基準や視点に基づき生徒や保護者に対して説明責任が果たせることを徹底する。

3 生活指導

（1）成果となった実績

- ①全教員参加型のグループエンカウンターを年2回実施し、生徒の生活課題把握に努めるとともに、新入生との親睦を図ることで生徒の抱く教師との心的距離を縮めた。
- ②体罰の根絶やいじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けて学年を超えた連絡体制を構築するとともに、スクールカウンセラーを活用し、生徒一人一人の心の健康に対応できる相談体制を確立した。
- ③学校評価アンケートでは、「私には気軽に相談できる先生がいる」の相談体制に関する質問に対して肯定的（そう思う・ややそう思う）に回答した生徒は91.7%（昨年は80%）、「学校の生活指導は正しく行われている」の生活指導体制に関する質問に対して肯定的（そう思う・ややそう思う）に回答した生徒は100%（昨年は80%）となっており、これは多くの生徒が教員による平生の生活指導及びその体制について受容していることを表している。
- ④毎週1回、生徒情報を共有するためのケース会議を開催することと併せて、スクールカウンセラーによる教員対象の悉皆研修を年1回実施し、希死念慮等が激しい生徒による不測の事態に備えた組織的な対応力を確立した。校内外自死事故：0件
- ⑤生活指導部の主催によるセーフティ教室、避難訓練、交通安全教室を計画的に企画・実施し、健康・安全の意識を高めた。

(2) 課題となった問題点

- ①スクールサポーター（地域警察署）との連携や、保護者、地域住民との協力体制の確立がまだ十分ではない。
- ②特別支援教育推進委員会を新規に発足させ、特別支援教育コーディネーター並びに養護教諭を中心に特別支援学校や外部諸機関との連携を保ちながら、特別支援教育を推進する。
- ③年2回の授業公開以外に、外部の方に学校公開する機会をなるべく多く創出し、外部との接触を通して社会のルールやマナーを知ることや自他を尊重する心の大切さを学ぶことの契機とする。
- ④学校からの積極的な情報発信に努め、保護者との連携をより強化していく方策を検討する。

4 進路指導

(1) 成果となった実績

- ①MAホールディングスや東洋製罐グループホールディングス、ライセンスアカデミー等の民間企業と連携した「都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」を展開し、進路を実現するための意欲と、正しい就労観や勤労観についての意識を高めるための教育活動を行うことができた。
- ②就職活動のスケジュールに合わせて、4年生では複数教員により個人面談等を繰り返し行い、自立に向けての意識の高揚を図るための努力を行うと同時に、ホームルームや総合的な探求の時間においても卒業後の進路を意識した指導を継続した。
- ③C4thの導入後、調査書の発行、就職手続き等、事故無く円滑な業務遂行を実現した。

(2) 課題となった問題点

- ①発達障害や学習障害の傾向がある生徒対応として、療育手帳取得に向けた具体的な就労支援や進路先の確保を行う。
- ②外国にルーツのある生徒への就労ビザ取得に向けた支援や進路指導について検討する。
- ③関係諸機関と連携した進路説明会を計画的に実施し、進路に関する情報を積極的に提供することで、生徒の進路意識を高める。
- ④本校卒業生による就職・進学体験談を披露するトークライブを開催し、進路行事の拡充を図る。

5 特別活動・部活動

(1) 成果となった実績

- ①コロナ禍の期間中、大きな制約を受けた学校行事や部活動の活性化を図るべく、全教職員、全生徒の参加の下で生徒会が主体的に計画するスポーツ大会を年2回実施した。これにより生徒の学校での居場所づくりと帰属意識の醸成に寄与することができた。
- ②品川区防災まちづくり部並びに所轄消防署との緊密な連携により、夜間における防災訓練と救急救命訓練を実施し、防災に対する意識を効果的に向上させることができた。
- ③「笑顔と学びの体験プロジェクト」を活用し、ミュージカル「アナと雪の女王」（劇団四季）への参加を通して学校における体験活動の充実を図った。校外の公共の場での観劇体験を通して、社会性を身につけることができた。
- ④「芸術鑑賞教室」への参加を通して芸術の魅力や楽しさを味わうとともに、豊かな情

操を培った。

- ⑤全日制主催の「110周年記念式典」に定時制生徒も一緒に参加することで、学校組織を構成するメンバーの一員として帰属意識を大いに高めることができた。

(2) 課題となった問題点

- ①生徒数減少により生徒会の活動自体が大きな制約を受けており、生徒会主催の文化的行事が極めて少ないのが現状である。今後は学校行事の拡充化が喫緊の課題である。
- ②運動部、文化部に関わらず、部活動の入部率が全校生徒7割を下回っており、これは今年度卒業した生徒を含んだ数字であり、来年度はさらに下回ることが想定される。部活動入部率向上に向けた啓発を積極的に行うと同時に、生徒の意欲に適切に応えるための外部指導員の継続的起用することが重要課題である。
- ③児童センター館や近隣施設（エコルとごし）等を活用した地域交流やボランティア活動の充実を図る。

6 重点目標の設定と方策（数値目標）

- | | | |
|------------------------------|---------------|-------------------|
| ○生徒の学校満足度（本校に入学してよかったと思える生徒） | 95.8% | （学校経営） |
| ○学校のDX化 | オンライン会議の開催 | 0回（学校経営） |
| ○学校のDX化 | オンラインによる授業実践 | 全教科各2回（学習指導） |
| ○学校のDX化 | 採点システムの利活用 | 全教科未導入（学習指導） |
| ○教職員相互の授業観察 | | 年3回（学習指導） |
| ○授業改善 | 授業満足度の向上 | 満足度91.7%（学習指導） |
| ○生活指導 | 教育相談体制の充実 | グループエンカウンターの実施年2回 |
| | | SCによる面接2回（生活指導） |
| ○生活指導 | 中退率の低下 | 2名（生活指導） |
| ○特別活動 | 部活動入部率 | 66.7%（生活指導） |
| ○進路実績 | 卒業時の進路決定率 | 卒業生の80%（進路指導） |
| ○進路指導 | 社会的自立的支援プログラム | 年3回（進路指導） |
| ○ライフ・ワーク・バランス | 残業1時間以内設定日 | 年間11回（学校経営） |